

新聞雜誌

明治壬申六月

第五十號



定價二匁

特	別
18	
787	
50	



緒言

凡天下ノ物事日ニ新ナルニ我未タ見聞セサルヲ知テ吾知識ヲ廣ルヨリ
 樂シキハナシ見聞ノ狭キ田舎人ハ心頑ニ知暗シテ疑怖△多ク竟ニ我ヲ
 是トシ人ヲ非トスルノ過アリ今日リハ辱キ 御代ニ逢ヒテモ遠境ノ人ハ
 大政ノサマヲモ知ラデ却テ疑非ル者モアルベシカクテハ逢カクキ世ニ生レシオ
 ナシ今 官許ヲ受テ新聞松局ヲ開キ 大政ヲ始メ諸府諸縣 慶重
 又ハ里巷ノ瑣事外國ノ異聞ニテ見聞ニ隨ヒ刊行スルハ我 日本國
 ノ人々ト新知ヲ開クノ樂ヲ同シ頑心僻ノ事ヲ棄ルニテ 確ニ世
 ヲ讀玉フ人々ヲ聞テニ推シ近ヲ知テ遠ヲ察シ天地間ニ我意外ノ事
 喜可キ事多ク唯一隅目ヲ見ルハ田舎人タルヲ免レス夏虫氷ヲ疑ハ笑有
 玉ハサテコフ復古ノ 大御代ニ生レシ人タルニ負カジト云ヘケ



新聞雜誌第五十號 明治五年壬申

○伊勢 神宮ヲ始メ諸神社自今祭典ノ節タリ共僧尼
 參詣苦シカラガル旨御布令アリタリ
 ○僧尼忌服ノ儀ハ是迄御制度モ無之處自今人民一般
 ノ忌服可受旨御達シ相ナリタリ
 ○今般教導職設ケ置レシニ付兼テ仰出サレシ三條ノ
 大旨ヲ体認シ各管轄内社寺ニ於テ追々説教可執行其
 管内老幼男女共稼業ノ余暇ヲ以テ信仰ノ社寺ニ詣リ
 聽聞可致旨一般末々迄遺漏ナク布達可有之尤説教所

ノ儀ハ教導職補任ノ者ヨリ取極メ支牒ノ筋無之様可
取計旨教部省ヨリ御達シ有之タリ

○先般教部省ニテ出仕寺院中へ告諭書ノ畧ニ世運時
ニ沿革アリ教法亦沿革セザルヲ得ス孰モ古ヲ考ルニ
天平中大ニ佛法ヲ興シテ各州ニ國分寺ヲ創建シ延曆
中大台真言ノ二宗ヲ開キ顯密ノ教ヲ起シ壽末建久已
後聲明者流頌禪者流競々起テ世教ヲ裨益シ人心ヲ固
結ス一盛一衰延テ今日ニ至ル然ルニ時ニ依テ事換リ
俗ニ從テ弊生ス今ヤ紹風衰頽シ碩徳甚乏シ適者宿出
ツト錐尺株ヲ守リ柱ニ膠シ時運ノ變通ヲ看破スル一

能ハズ慨歎スベキノ甚シキ也方今新ニ教部省ヲ置キ
布教ノ法ヲ盛ニシテ兆民ヲ安撫セント欲ス是ニ於テ
先東京府ニ大教院ヲ創立シ學業奮勵ノ策ヲ運シ各派
ノ僧徒舉テ憤然トシテ教法ヲ振起シ日ナラズシテ天
下兆民敬神愛國天理人道 皇上奉戴 朝旨遵奉スル
三章ノ大義ヲ体認シ其盛意ヲ普ク兆民ニ貫徹セシメ
速ニ政化ヲ補フノ功ヲ奏スルニ至ラン既ニ異教駁々
乎トシテ將ニ入ントスルノ勢アリ是我教ヲ主張シテ
民心ヲ維持シ國恩ヲ報スルノ秋也豈是ヲ坐視スベケ
ンヤ各國各縣ニ於テハ小教院ヲ設ケ其式一ニ之ニ倣

フ教生各國ヲ巡行シ教導勉勵セシメ其學則ノ如キハ
 舊習因循ノ弊ヲ除キ固陋頑僻ノ見ヲ去テ内外典ニ論
 ナク西洋各國ノ書籍ニ至ルマテ博ク研究シ大知識ヲ
 開キ上ハ國宗ヲ羽翼シ下ハ民心ヲ維持シテ 皇威隆
 昌ナラン^一ヲ各汎本末同心戮力シテ旃ヲ勗ノヨ云々
 ○今般深津縣廳備州小田郡並岡へ轉移セラレ更ニ小
 田縣ト改称相ナリタリ

○外務省ニ於テ定メ置ル、海外旅行規則書ノ寫

一各國御條約書中ニ有之候條々ハ一々相心得可申候事
 一何事ニヨラズ 皇國ノ御為ニ可相成筋見聞ノ節ハ

精々心ヲ用ヒ穿鑿ヲ遂ゲ候上書面ヲ以テ外國官又ハ神
 奈川、大坂、兵庫、長崎、新瀉、箱館ノ内外國掛御役所へ飛脚
 便ノ節可申越若又書通不便ノ節ハ歸國ノ上可申出事
 一銘々父母ノ邦ヲハナレ外國へ罷越候儀ニ甘各覺悟
 可有之儀ニ候得共一身ノ慎方ハ不及申聊ノ事ナリ共
 御國ノ御外聞不相成様心掛ケ可申且引當無之外國人
 ヲリ借財ノ儀決シテ不相成萬一旅費其外差支無余儀
 外國ニ於テ借財イタシ候ハ、歸國ノ節迄ニ何様ニモ
 イタシ償度決テ不義理ノ事仕間舖若又引負ニイタシ
 其儘逃レ歸リ追テ相顯ル、ニ於テハ當人ハ勿論主家

一類迄其時誼ニヨリ急度御咎ノ上償疾ノ義可被仰渡事
 一海外旅行中御國人ニ出會候ハ、仮令不相知モノニ
 候氏互ニ相親ミ其モノ不心得ノ事有之候ハ、異見サ
 シ加ヘ或ハ病氣艱苦ノ体見捨棄候ハ、可成丈扶助イ
 タシ遣シ可申候事

一外國人ヘ對シ恨ヲ含候事有之候共可成ハ堪忍イタ
 シ不得止節ハ其土地ノ役所ヘ訥立静カニ筋合^ルシモ
 ラヒ可申何程急怒ニ堪ヘザル事ナリトテ決シテ外國
 人ヲ殺害イタシ又ハ為疵負候様ノ舉動致間舖事
 一御渡ノ御印章ハ大切ニ取扱歸國ノ上可奉返納尤當

御役所ニ不限前書何レノ港ニテモ歸着ノ都合次第相
 納候テ不苦候事

一他國ノ人別ニ加ハリ候事并宗門相改候儀堅ク御制
 禁ノ事

一年限ノ儀ハ別段御定無之候得共九十ヶ年ハ御許容
 可被下候事

一年限相立無滞歸國ノ上ハ旅行中ノ始末委細ニ可申
 上候事

○或人ノ話ニ郵便ハ内外便利ノ為ノ設ケラレタル御
 趣意ナレ氏金子入書状ハ^送送致サ、ルトノ御規則ニ

付人々却テ従前ノ飛脚屋ヲ便トセリ迄頃横濱新聞紙
中ニモ屢々郵便ノ不便ナルヲ記セリ其位ニ當ル者ヨ
ロシク法ヲ立テ便利ヲ計リ規則書ノ初メニ揭示セラ
ル、御趣意ニ及セサル様イタシ度ナリト云々

○石州某郡青原村里正原田民四郎ハ先般穢多非人ノ
称廢止御布令ノ節門閤ニ誇ル色ナク直ニ非人等ヲ坐
敷ニ請シ夫婦出向ヒ俱ニ祝酒ヲ酌カハシタリ依テ部
下ノ者共他村ニ魁ガケ非人等ヲ蔑視スルノ舊習ヲ洗
除シ頗ニ混同一和セリトゾ

○先般大坂府ニ於テ賣色婦陰門檢査ノ法ヲ設ケラレ

シ處弦妓共リノ苦情ニタヘス夫々身ノ仕舞ヲウケ多
分ハ西京へ上レリトゾ依テ萬客モ又十二八九ハ西京
ニ遊ヘル由當節西京ノ繁昌ナルヲ前日ノ比ニアラズ
ト或人語レリ

○新吉原玉屋鶴泉兩家ノ旧家ナルハ皆人ノ知ル所ナ
リシカ迄未家業衰微ニヨリテ轉業セリトゾ

○同所佐野榎モ事故アリテ既ニ斷絶ノ域ニ至リシカ
同家拖遊女和歌式ナル者傍輩ト相謀リ種々苦辛シ遊
ニ家名ヲ起シ迄日再ヒ開店セル由是又遊里ノ一奇事也
○文部省博覽會出品ノ中四日市竹屋清藏新製ノ擬爐

紙ハ屯モ衆人ニ賞譽セラレ同省ヨリモ賞状ヲ給ハリ
シトゾ右出員ノ擬種紙ハ中等ノ品ニテ未タ精エヲ尽
サストテ猶工風ヲ凝シ近日最上ノ品ヲツクリ出セル
ヨシ

○去七月初旬ヨリ淺草境内ニ於テ一場ヲ設ケ支那ノ
大男魯五九身尺ノ大其妻「スチヤイン」ノ兩人ヲ世間ノ
縦觀ニ供セル由

○近頃新發明ニヨリテ氣燈ヲ製スルニハ「トリエ」
石臘ヲ以テ最上トス殊ニ日本ニ於テノ多ク「トリエ」
油ヲ天藏ス嘗テ其性質ヲ試論セシニ最モ美ナリ且之

ヲ「トリエ」スルノ法容易ニシテ費モ亦隨テ少ナシ米國ニ
テハ氣燈社中至リテ多シ中ニモ「サンフランシスコ」メ
トロポリエ「ン」ノ社中ハガリホルニ「ヤ」ノ「ヘ」トリエ「ン」ニ
テ氣燈ヲ製造セリ其二十四字間ニ製出スル處ノ「瓦」
大約一^ツ百或ハ一^ツ百五十万「ト」ド「ト」ヲ通照スト云フ一^ツ千
八百六十八年予合衆國ノ「ガ」イルシニ「バ」ニ於テ石炭坑
ヲ「ケン」究セシ時初メテ「ベ」トリエ「ン」ノ貴重スベキ「フ」ヲ知
リ「普」子ク海内ニ施設セン「フ」ヲ布告セリ故ニ日本ニ於
テモ東京西京大坂等ノ大都會ニハ速ニ此氣燈創立ア
ラン「フ」ヲ冀望スト米國コロ子ル官「エ」ー「シー」ダン「レ」語レリ

○或^{カキコト}狡童ノ詬シニ近頃裸躰ノ禁嚴重御布令アリケレ
トモ朝夕人々ノ信仰スル釋迦無二佛ハ御制禁ノ旨ヲ
奉シエハス従前ノ通裸躰ニテ居ラレリ然ルニ一向御
カマヒヌナクイブカシキヲナリ邏兵ナンゾ一捧ヲ加
ヘラレザルヤ

○鈴木弋三ノ投書ニ古人言ルヲアリ白圭ノカケタル
ハ尚磨ク可シ言ノカケタルハ磨ク可ヲト茲ニ紀元九
百九十六七年代佛蘭王ロベルトノ世ニ當ツテ街頭相
傳テ曰紀元一千年ニ及テ地球滅亡スト之レニ依テ天
下ノ衆生憂懼自カラ禁ゼス百事尽ク廢業シ命且々ニ

迫ルヲ以テ日ニ祈念ヲ事トシ血氣無慮ノ徒ハ私情ヲ
恣ニシ物情恟々タリ然ル知幸ニ災際又一説ヲ生シ曰
ク一千年ノ歳末ニ非ラサレハ耶蘇ヨリ年數千ニ充
タズト是ノ説ヲ固持スル者ハ猶一年職業ヲ勉メ来歳
ノ衣食ヲ給セシガ故ニ方民漸ク凍餓ヲ免カルヲ得
タリ若シ其説ヲ同フシ擧テ職業ヲ廢セハ天下ノ黎民
多^ク遺ナキニ至ラシ浮説ノ人心ヲ搖動傷害スルヲ如斯
ノレ甚シ近頃余傳聞ス彗星東南ノ間ニ見レ逐次ニ我
地球ニ近ツキ彼ノ引カヲ以テ地面ノ流動物ヲ吸上ル
不日ニシテ地球破裂スト嗚呼何ノ事ノヤ幸ニ人智開

明ニ進ニ音時ノ如ク其説ヲ信セスト雖モ亦疑惑ノ心
 ヲ懷カガルハナシ故ニ言ハ慎マズンバアル可カラズト
 ○凡新聞紙ハ善トナク悪トナク万事アリノマ、ニ記
 載セルヲ以テヨシトス然ルヲ已レカ私意ニテ善ヲ惡
 ト非リ惡ヲ善ト賞スルニ至リテハ臆兆ノ耳目ヲ惑ハ
 シ新聞ノ主旨ニモトルト云フバシ或人西京新聞紙ノ
 意ヲマケテ官ニ諂フヲソシレリ我新聞紙モ亦マ、
 誤謬アリテ四方君子ノ責ニ預ル豈汗背セガル可シヤ
 願ハ諸處新聞紙ニ於テモ確實精細ニ記載アラシムヲ
 新聞雜誌第五十號 終

報告

○東洋史畧 全ニ卷 留田輔年譯

此書ハ北米洲合衆國富強繁盛ノ今日ニ至ルノ事業總
 テ其部中風土物産學々貿易政躰軍備全整タルヲ悉ク
 原書ヨリ抜萃セリ其訳文省略ニ過タリト雖摘要タル
 大関目ニシテ更ニ修飾數卷ノ類書ニ勝レリ

發行書肆

萬笈閣 枕屋 喜兵衛

○通辨手引草

青柳毅著

此書ハ童蒙英語ヲ學フ者ノタメニ設タル所ナリ故ニ
 盡ク假名ヲ英文ノ下ニ點シ又譯語モ極メテ読易キヲ

旨トセリ初學ノ措搦コノ書ニ過^スガルナシ
東京日本橋通三丁目
山城屋佐兵衛

○再東京池ノ端仲町ニ塙屋守田治兵衛トテ九代連續
セル藥舖^{ヤクシヤ}アリ此家ニ迄来ニ種ノ奇藥ヲ發明セリ諸病
ニ効アルヲ以テ是ヲ寶丹ト號ス頗簡便ニシテ實ニ稀
代ノ良藥ナリ去年正月大學東校ヘ其藥方ノ檢査ヲ願
テ第一番ノ免許ヲ受シヨリ愈コレヲ^{モテハヤス}貴重モノノ日ニ盛
ナリト云カ、ル賣藥スラ原^{モト}リノ發明ノ効ニヨリテ大
ニ幸福ヲ得シナルベシ

撰者伏テ四方ノ君子ニ告^ス奉ル本局既ニ官許ヲ得テ新聞紙ヲ刊行ス
其旨意ハ前ニ述テ而シ知^ル相奇事異聞耳目ノ及^ルハハハ處多ク頑久^ク同好人
何事モヨク其處々ノ新聞ヲ書集ノ本局及ビ下ニ列スル賣^ル處ニ寄セ玉
ハ次第ニ刊行發兌スヘシ但寄玉ヲ書付ニ其住處姓名ヲ必ス載セ玉
可シ無名ノ書ハ敢テ未入セ^ズ無根ノ浮言造謠アルヲ怒ルナリ

- 一切賣買ノ弘^ス等類ニヨツテ出版スル事件
- 一田地山林家屋舟車等賣買貸借
- 一產物器具藥品藥劑等一切賣買
- 一諸船ノ入湊出帆積荷物件等
- 一店ヒラキ新張賣出等ノ引札
- 一觀セテノ集會等ノ引札
- 一右等何レモ一行廿三字一度出版價五匁宛同事件ニ度分ハ五分三匁
- ニテ街引賣イタシ候
- 一新發明^ル等類ニヨツテ出版スル事件
- 一金銀其外ノ貨物等
- 一失物尋物等

新開雜誌定價一號銀二匁 每週出版

當時發兌諸君先キ二十冊分引受候由定價以割引

同四十冊分引割引

右定ノ通約定前金受取候上ハ自歸發兌順序ノ逐ヒ上局ヨリ御居致候又遠方取次費弘方望

本局

東京兩國若松町

新堂

東京西國橋町三丁目

和泉屋金右三門

東京芝三島町

和泉屋市兵衛

大塚橋

河内屋吉兵衛

東京東河原町

村上勘兵衛

東京日本橋通

垣原屋茂兵衛

大塚橋

河内屋喜兵衛

大塚橋

河内屋清七

東京日本橋町

和泉屋杜造

賣所

東京